

令和2年度学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校) n19

目指す学校像	母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 主体的な学びの実現と確かな学力の育成 2 地域と協働した魅力ある学校づくり 3 実学としての資格取得の推進と100%の進路実現 4 社会で通用する産業人の育成と部活動の充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<p>生徒の基礎学力の定着による「確かな学力」の育成は、本校にとって重要な課題である。その際、最も効果的なのは、生徒が主体的(自主的)に取り組むようになることである。そのためには、全教職員が「主体的な学び」を実現すべく、日々授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る臨時休業による影響について、ICTの活用など学校運営の工夫により対応する必要がある。</p>	<p>(1) 教職員が「主体的な学びの実現」に向けた授業改善を行う。</p> <p>(2) 生徒の「確かな学力の育成」に向けた個に応じた学習支援を行う。</p>	<p>(1) 有能感・自己決定感・対人交流を意識させ、生徒の主体的に学習に取り組む態度を醸成する。</p> <p>(2) タブレット端末やプロジェクター等 ICT を活用した授業や Google Classroom 等の支援ツールを活用した学習支援を推進する。</p>	<p>(1) 生徒アンケートにより、学習に主体的に取り組む生徒が8割を超えたか。</p> <p>(2) 8割の教員がタブレット端末やプロジェクター等 ICT を活用した授業や Google Classroom 等の支援ツールを活用した学習支援を行ったか。</p>	<p>主体的学びの推進と校務のICT化に取り組んだ。</p> <p>(1) 82.4%の生徒が朝学習に前向きに取り組んだ。調査へは72.6%、資格取得へは70%の生徒が意欲的に取り組んだ。</p> <p>(2) 全ての教員がタブレット等により課題の配布やチェックを行った。また、すべての担任が担任業務の一部をICT化できた。</p>	<p>達成度</p> <p>A</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業により計画通り朝学習が実施できなかった。次年度も不測の事態に備え、計画を立てる必要がある。</p> <p>学校のICT化は、臨時休業中の生徒の学習保障を妨げで行ったこと、プロジェクターを発売し利用方法の研究及び推進を強化したことにより、大きく前進した。次年度も引き続き授業や校務へのICT機器の利用を推進する。</p>
2	<p>現代社会では、学校の抱える課題は複雑化・困難化し、地域においては、若年層の都市部への流失による活力の低下、家庭の教育力の低下などの課題を抱え、それぞれ単独では解決が困難な状況になっている。今まさに学校と地域が協働した学校づくり・地域づくりが不可欠になっている。</p> <p>このような中、本校において、今までの取組をステップに、地域連携の取組、地域への情報発信などを更に深め、地域と一体となった学校づくりを行うとともに、学校を核とした地域づくりにも貢献し、児玉高校との統合も見据え、魅力ある学校・地域づくりに取り組む必要がある。</p>	<p>(1) 地域との連携・協働の取組(「知る」「助けてもらう」「助ける」)を行う。</p> <p>(2) 地域に学校の魅力を発信する。</p>	<p>(1) 地域交流を推進し、地元イベント等へ引き続き参加する。</p> <p>(2) 市や自治会と連携し、課題解決に向け地域と協働する学校体制づくりを推進する。</p> <p>(3) 地元企業の技術者や農業関係者の知識・技能を授業や補習等に活用する。</p>	<p>(1) 地元イベントへ参加5回以上できたか。</p> <p>(2) 市や自治会等と、地域課題の考察や解決に向けた方策等を共有する機会を設けられたか。</p> <p>(3) 地元企業や農業関係者の知識・技能を活用した授業等を5回以上実施できたか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で計画通り地域連携を推進できなかった。</p> <p>(1) 地域イベントがすべて中止となり、参加できなかった。</p> <p>(2) 生徒会役員が本庄市の次世代地域づくり会議に出席し、高校生と目録からまちづくりに関する提言を行った。</p> <p>(3) 電子機械科の「ものづくりマイスター」等による技術指導として地元企業から10回、環境デザイン科造園技術及び課題研究で地元農業関係者から6回、授業での技術指導を実施した。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>	<p>臨時休業後の生徒の学習保障に取り組んだが、理解度に応じたきめ細かな指導が十分とは言えなかった。次年度は、不測の事態を想定し、生徒の実態に合った学びの学習の充実に取り組む必要がある。欠点解消率は、3年生2学期を除いて7割を達成できなかった。次年度は、多様な生徒の特性を理解しつつ、それぞれに合った学習支援が必要である。</p> <p>地域イベントが中止となり、本校の取組を広く紹介したり、生徒が地域住民と交流する機会がなくなった。地域交流の在り方を見直し、新しい交流の形を検討する必要がある。</p> <p>地元企業や農業関係者の知識・技能を授業で活用することについては、農業科、工業科共に達成できた。本校の周辺には工業団地があり多くの企業があることや、農業関係の企業や団体も多い。次年度は地域協働の取組を加速させ、地元の人材をさらに活用していきたい。</p>
3	<p>本校では専門学科の特色を生かし、就職や社会で役立つ資格取得に積極的に取り組ませている。この成果を生かし、更に充実させ実績を高め、生徒募集にもつなげていく必要がある。</p> <p>また、教職員の並々ならぬ努力により、就職内定率100%を達成している。新型コロナウイルス感染症対策の中、今後厳しい状況が予想されるが、この成果を維持すべく、きめ細かな進路指導や資格取得の支援、また新たな就職先の開拓などに、全教職員が一丸となって取り組む必要がある。</p>	<p>(1) 実学としての資格取得の取組を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の進路希望を100%実現させるための進路指導等を行う。</p>	<p>(1) 専門性の高い難関資格取得に向け、授業や補習等の充実を図る。</p> <p>(2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター・アグリマイスター顕彰等の取得を推奨する。</p>	<p>(1) 昨年度より検定や資格の取得率が向上したか。また、授業や補習等を充実できたか。</p> <p>(2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター・アグリマイスター顕彰等の取得者が昨年比で増加したか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で多くの検定や資格試験が中止となった。</p> <p>(1) 検定や資格試験が中止となり、受験する機会が減った。実施された検定や資格試験については昨年よりも1.5倍の受験希望があった。</p> <p>(2) 取得資格が基準を下回る生徒が多く、増加には至らなかった。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>	<p>検定や資格は、生徒の技能や知識の向上にもなり、就職や進学にも役立つことから、次年度も引き続き取得に向け学校全体で取り組む。</p>
4	<p>昨年度、本校では遅刻生徒の延べ数が増加した。生徒を社会で通用する産業人に育てるには、遅刻を含め基本的な生活習慣とともに社会人としてのマナーなどを身に付けさせなければならない。そのために、家庭との連携を密にしながら生徒の自覚を促す効果的な指導を行う必要がある。</p> <p>また、充実した高校生活には、部活動は重要な要素である。児玉高校との統合を見据え、部活動の充実に向けた環境づくりに取り組む必要がある。</p>	<p>(1) 社会で通用する産業人を育てるため、基本的な生活習慣と社会人のマナーを身に付けさせる。</p> <p>(2) 高校生活の重要な要素である部活動の充実に向けた環境づくりに取り組む。</p>	<p>(1) 朝の遅刻指導や日常の整容指導を継続し、基本的な生活習慣や社会人としてのマナーを醸成する。</p> <p>(2) メール配信を用いて学校からの連絡等を確実に送り、保護者との連携を強化する。</p> <p>(3) 巡回相談を活用し、特別支援を要する生徒とその保護者への支援を行う。また、学校として特別支援教育の体制づくりを行う。</p>	<p>(1) 遅刻指導や整容指導により、前年より遅刻生徒が減少したか。</p> <p>(2) 保護者への配布物や行事等の連絡をメール配信やHPでも9割以上行うことができたか。</p> <p>(3) 巡回相談を年8回実施したか。</p> <p>また、校内委員会を年5回以上開催し、要支援の生徒情報を共有し支援方法や導入の検討ができたか。</p>	<p>生徒の実態に合わせたきめ細かな指導により、昨年よりも状況が改善した。</p> <p>(1) 遅刻生徒数は昨年比2割減。問題行動件数は4件と半減した。</p> <p>(2) 教務部を中心として、配布物の内容や行事の案内をメールで配信できた。</p> <p>(3) 巡回相談は、新型コロナウイルス感染症の影響で2学期から実施したことで4回の実施に留まった。委員会でも支援の生徒を共有し、巡回支援から助言等を受賞し、生徒の指導や支援に反映した。</p>	<p>達成度</p> <p>A</p>	<p>全教職員が共通理解の下、生徒指導に取り組み、遅刻者数や問題行動件数が減少してきている。この体制を次年度も維持しつつ、基本的な生活習慣の確立、挨拶・言葉遣い、規範意識醸成等、社会性の向上にもさらに取り組む。</p> <p>生徒が多様化してきていることから、学習支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、引き続き必要な支援を行う。</p>
		<p>(1) 部活動の意義を学年集会や保護者会等で、生徒や保護者に伝え、途中で退部する生徒を減少させる</p> <p>(2) 児玉高校との部活交流を推進し、合同練習や合同合宿等を推進する。</p>	<p>(1) 部活動の意義を学年集会や保護者会等で、生徒や保護者に伝え、途中で退部する生徒を減少させたか。</p> <p>(2) 児玉高校との部活交流を行った、合同チームで試合等に参加できたか。</p>	<p>部活動に参加している生徒は、真剣に取り組む実績をあげた。</p> <p>(1) 68%の生徒が、部活動が活発であると回答している。陸上競技部、サッカー部、番道部等が実績を残した。</p> <p>(2) 多くの運動部が児玉高校と放課後等の合同練習を行った。また、合同チームで大会に参加した。</p>	<p>達成度</p> <p>B</p>	<p>部活動が活発であると回答している生徒が多いものの、参加している人数は多くない。部活動の意義等を生徒が考える機会を数回とともに、放課後等の実習や補習等との調整を行い、参加する生徒が増えるようにする必要がある。</p>	

学校関係者評価	令和3年2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・臨時休業せざるを得ない状況下で、タブレット等のICT機器の利用により課題解決に取り組んだこと、また、学習指導員等による補習を実施し、学習の遅れを最小限に留めたことは評価に値する。</p> <p>・映像やライブ等、ICTを取り入れた授業は生徒のやる気を引き出し、学習効果が上がるので、もっと取り入れる必要がある。</p> <p>・日頃の授業の中でグループ学習をもっと取り入れ生徒のコミュニケーション力を伸ばしながら、課題解決能力を向上させる工夫がもっと必要である。</p> <p>・学習サポーターや学習指導員等の確保は、県全体の課題だと思う。地域の教員退職者等を中心に「人材バンク」の登録等も可能かと思われる。</p> <p>・教員と生徒、生徒同士の真のふれあいの機会を大切にしていくことを望む。</p> <p>・朝学習や補習の取組についてはより一層の充実を期待する。</p> <p>・オンラインを活用した健康観察、課題学習等、今の時代を生きる子供たちにとってスムーズに取り組めるツールを使うことも、今後の選択肢の一つだということに改めて実感した。今後の充実を望みたい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響による難しい環境下だったが、この環境がICT化の前進に繋がっているのではないかと考える。この前進を止めることなく、新型コロナウイルス感染症の終息後も継続していただくことが教育スタイルの変化に繋がると考える。今後も継続した取組を期待する。</p> <p>・中学校は本年度、GIGAスクール構想の下、生徒が個人的に使える情報端末が整備された。この端末を使い他校と共同の学習ができるような構築しているの、高校から指導をお願いしたい。</p>
自治会に配られる白楊TIMESで学校の方針や取組を見ている。多くの地域イベントや学校行事が中止になる中、生徒会役員が本庄市の「次世代地域づくり会議」に出席して提言を行ったことは大変評価できる。	
「ふれあい体験」や「親子おもしろ体験講座」は、学校の取組を紹介する良い機会なので、今後も続けて欲しいと思う。このような交流活動は生徒にとって学業への励みになるものがある。	
地域交流や企業との交流等を学校の強みにできると思う。地域と一体になった学校づくりを目指していきたい。	
HPを通して教育活動を地域へ発信できていると感じている。地域中学校への学科紹介等、PRは今後も積極的に推進して欲しい。	
体験講座のアシスタントとして生徒が参加し、地域の子供たちに教える機会を持ったことは、生徒本人にとって良い経験となった。生徒たちも、「自信をもって生き生きと取り組むことができた」と言っている。	
学校の魅力発信において「動物ふれあい」や「農業体験」は学校の強み・特徴を発信する良いイベントであると考え。弊社でも将来のものづくり人材を発掘・育成するため、「キッズエンジニア」という取組をしている。子供たちにもものづくりの楽しさを伝える取組は、是非継続していただきたい。	
地域との連携では確保已へを軸にすることが取り組みやすいと考える。金屋小学校の取組を児玉中学校で発展させ、児玉白楊高校で深化させることができれば、地域に根ざした取組になると考えている。	
資格は会社では重要な要素になる。どのような資格でも取得のチャンスをつくってあげることが必要である。資格取得することは、生徒本人の達成感にもつながる。普通高校では取得が不可能なものも多くあるかと思うので、今後も資格取得の力を注いで欲しい。	
就職内定率100%を達成したことは、教職員の情熱と努力の結果であり、大変評価している。専門学校として、知識・技能や一人一人の個性を一層伸ばして欲しい。	
高校卒業後、社会人となる自覚と責任感を醸成することも重要である。	
インターンシップなどの中止により、進路意識の低下や目標を持つのが難しく、将来のことを見失っている生徒も多くなる状況かと思う。その中で、資格取得は目標に向けて努力する良いトレーニングになる。可否の結果も大切であるが、それまでの努力が何より財産である。まずは生徒に目標を持たせ、それに向けて努力をさせるような指導に取り組まれることを期待する。	
進路意識が低い生徒が多いことから、引き続き進路指導計画に基づいた指導が必要不可欠である。	
新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップが中止となった。次年度の状況が不透明であるが、実施できる場合に備えて、準備を進めていく。	
3年生の進路実現は、進路指導部と学年教員の連携により高い決定率を維持できている。引き続き学校として進路実現に取り組む。	
身だしなみや遅刻等は、社会に出ると最も気にならなければならないことである。基本的には私たちは社会ルールの中で生活しているの、高校卒業までにしっかり身に付けなければならないと考える。今後も生徒に対してのマナー教育を充実させて欲しい。	
多様な生徒が増える中、カウンセリングのより一層の充実を望む。	
部活動は、忍耐力を醸成したり人間関係を構築したりと、授業では学べないものを学ぶことができる。また、何かに打ち込むことも大切である。	
児玉高校との合同練習は、令和5年度の両校統合に向けた課題や問題点の提起になると思う。スポーツを通して一体感を醸成できるので、統合の一助となるのではないだろうか。今後、生徒の実態に合わせて部活動の活性化に取り組んで欲しい。	
個別の生徒に合わせたきめ細かな指導により状況が改善されているのは素晴らしいことである。個別のフォローやサポートは努力を要するが、多様化と個性が尊重される中で、その取組が継続されることを期待している。	
生徒たちは、児玉白楊高校での3年間の学びの中で、先生方に見守られ大きく成長できた。感謝したい。	
問題行動や遅刻者数が減少しているのは、学校の取組の成果である。今後も引き続き気を抜かず一貫して指導に取り組んで欲しい。	